

ピアノ教則本「バイエル」について 分析とその活用

柏 瀬 愛 子・牛 田 幸 子*

On the Piano Etude Beyer. Analysis and Application.

A. KASHIWASE and S. USHIDA

緒 言

鍵盤楽器(ピアノ)学習の入門書としてその名を知られているバイエルは、明治13年(1880年)メーソンによって日本にもたらされた。明治23年(1890年)には、日本語版のバイエル教本も出版されるよになり、ピアノ教育には欠かせない教本として多くの人々から親しまれ愛用され150年余の歳月を経てきた。しかし、高度成長期を迎えた昭和40年頃から、ピアノの習い初める者が増えだし、その年齢も年々低くなりはじめると、バイエルの機能的な指訓練は「年少者にとって面白味に欠ける。時代に合わない」などの批判がもたらされるようになり、バイエルに代わるいろいろな入門用教本が諸外国から導入されるようになってきた。現に民間の音楽教室では、初心者に対し全くバイエルを使わないレッスンが行なわれていると聞く。

このように、ピアノ教育に携わる一部の音楽教師からの批判によって、永い歴史をもつバイエル教則本の存在は薄れはじめることになった。

教員養成を目的とした大学、短期大学の楽器担当者からも同じような意見が出され、その解決策として各大学の音楽研究室や研究者有志によって教本曲集が発行される傾向にある。しかし、このオリジナル曲集編、なぜかバイエルの抜粋が多く見られる。また、学校独自の教本を使う傍ら、バイエルも従来通り併用されているなど、批判しながらも依然としてバイエルを使うケースが多い。理由は、国公立の教員採用試験(幼稚園、小学校(専科は除く))に臨むとき実技課題としてバイエル練習曲の演奏(No.80~No.104の間で当日指定の方法が多い)が課せられるからであろう。結局のところ、教員養成校としては新しい感覚の教材による学習ということを考えても、バイエルを捨て去ることのできない状況にあるのだ。

カレッジ・ピアノ研究会で、初心者を対象としたエチュード(バイエルコース)の編纂を行なったことを契機として、より効果的な学習法や指導法を追求するために本研究を行なった。

*牛田幸子・中京女子大学、日本福祉大学、名古屋短期大学 非常勤講師

バイエルについて

1. 著者 フェルディナント・バイヤー

ドイツのクヴェーアフルトに生まれたフェルディナント・バイヤー (Ferdinand. Beyer 1803~1863年) は、ピアノ奏者であるとともに才能ある音楽家かつ作曲家として知られた人であった。彼の作品の多くは、その当時一般に親しまれていた管弦楽曲やオペラのアリアなどを、ピアノ曲用に編曲したり趣味よく改作した小品ものであった。また、彼自信の作曲によるものとしては、サロン風の幻想曲やデイヴェルテイメント (嬉遊曲) などがあり、それぞれ好評を得ていたと言われる。これらの曲は、ショット出版社によって出版されているようである。とくに1850年頃に初出版されたのではないかとされるピアノ教則本バイエルは、自国語(ドイツ)だけにとどまらず、英語、フランス語、スペイン語でも出版され、全世界に広められその名が知られるものとなった。しかし、なぜかバイヤーその人の生い立ちや、家族のこと、他に数多く残されたはずの彼の作品について詳細を語る書物は皆無である。

2. 教則本バイエルが日本に入ってきた由来

ピアノ教則本バイエルが日本にもたらされたのは、明治13年(1881年)日本政府によって、文部省音楽取調掛雇用外国人教師として招へいされて赴任してきたアメリカ人、ルーサー・ホウィントン・メーソン (Luther Whitig Mason) によってである。

学校音楽の教育者として名声のあったメーソンは、着任後日本の学校音楽教育の樹立や、小学校唱歌集の編集を手がけるとともに、音楽教師の養成に力を入れた。この教師養成の体系的なプログラムの一環として取りあげられたピアノ授業の教材がバイエルであったことから、以来、ピアノ教育に欠かせない教本として浸透していった。彼が、日本に持ち込んだ他の多くの教材の中からバイエルを選んだ理由は、① 初心者が1年位で修了するのに手頃な曲数である。② さほど苦勞することなく指の訓練ができる。③ 丁寧な学習がされれば、一応の基礎技術が身につけられる。④ 初等教育の音楽授業で扱う歌唱教材は、バイエル修了の技術があれば十分弾きこなせる、と見たからである。なお、同時に輸入された教本で、メーソンによって文部省・内記省に回付し登録を受けるために差し出された図書楽譜の目録は、バイエル・メトデ20冊をはじめ、フラジー(プレイデイ)、スタジース、セロニー(ツェルニー)、クレメンティ、ヘルチニー(ベルティニー)、エメリース(エメリー)、リトルフ(ケーラー)、ジアバリー(ディアベリー)などで、その冊数184冊におよんでいた。現在、これらの教本のほとんどは出版され、バイエルに代るもの、あるいはバイエル修了後の教本として使われている。

3. 教則本バイエル、その内容

ピアノ学習の導入書といわれるだけに、その内容は初心者にもわかりやすいように極めて系統的、論理的に構成されている。本書の中でバイエル自身、「① この本は初歩の入門書として生徒が1~2年の間、勉強するだけの教材を集めたものであること。② 幼い子どもが先生について学ぶようになるまでの間、音楽的素養のある両親達によって指導される本としても役に立つこと。③ 美しい弾き方がすぐ分るようにやさしく書いてあるので自習書としても適している。」と述べているが、確かに機械的な指の訓練は最少限に留められている。また、むつかしい奏法や装飾法の完成なども度外視され、早い時期から1曲づつが楽しい小品として非常に効率よく機能的にまとめられている。いまま少し内容について詳しく触れてみよう。

1) 片手練習、両手練習。右手、左手ともに鍵と指の結びつきや、読譜の理解をさせながら指の独立を目的とした打鍵練習を行う。このとき、よい姿勢、よい手の形、拍子など、ピアノを

学ぶために必要な基礎知識を合せて知ることができる。(譜例1)

2) 主題と変奏. 片手づゝの練習であるが, 先生との連弾(3手)という形もとれるため, ハーモニーの美しさを感じられる. また, 打鍵練習とともに音符, 休符の種類とその長さ, 拍子, 奏法(テクニック)などが覚えられる. なお, このバリエーションは, 右手はいきなり5音を使っているが, 左手はまず使いやすい指の3音練習から5音練習へと進められる.(譜例2)

3) 両手練習. まずオクターブ間の中で5音を使った並進行, 反進行の練習がされる. このとき, 拍の長い音符(O)全音符から次第に拍が分割された短かい音符(♪)4分音符へと進められていることや, 一定のテンポを保ち拍頭で左右の手が音合せしていくことなど, 練習しやすいよう細かい配慮がもたらされている.(譜例3)

4) 伴奏の型. No.17より左手に伴奏の型が現れだす. この伴奏型は右手の旋律音をひき立て, メロディックにするとともに, ハーモニーの美しさを感じさせる.(譜例4)

5) 音符の分割. No.44で初めて $\frac{1}{2}$ 拍(♪)8分音符が扱われる. No.48では(♪)1拍半と(♪)半拍のリズムが, No.86で $\frac{1}{4}$ 拍(♪)16分音符が扱われる. このように, 進度に合わせて指の早い動きを求めていくよう構成されている.

6) 加線上の音と, へ音記号. 音域が広がり5線に表せない音を加線をもって表わすことを知る.

譜例1 片手練習, 両手練習

譜例2 主題と変奏, 右手用

譜例3 両手練習

譜例4 伴奏型

譜例5 加線上の音（上の加線）

(下の加線)

(へ音記号への読みかえ)

譜例6 音階

(へ長調)

(イ短調)

(半音階)

ト音譜表上の高音部位から低音部位へと進められていく。更にト音譜表上の低音部(加線上)が、へ音譜表に置きかえられることを学ぶ。これによって音域が一層拡張されることになる。(譜例5)

7) 音階. 1オクターブ以上にわたる音階練習は、へ長調(Cdur)を基本として、ト(G)、ニ(D)、イ(A)、ホ(E)、へ(F)、変ロ(B)長音階とイ短調(amoll)、並びに半音階がとりあげられ、調号、階名に対する理解や、長音階、短音階の構造上の違い、運指、手首の使い方などを知らせる。とくにNo.73に見られる部分的な半音階や、No.105, 106とその予備練習などは、困難な運指を知る最良の課題である。(譜例6)

8) 重音(和音). 2度, 3度の重音は、すでにNo.18やNo.64で使われているが、No.67の6度和音の学習により手首の安定や指の独立を計るものである。(譜例7)

9) 連符. バイエルの中で使われている連符は3連符の形だけであるが、左手の拍頭に当る5指を意識させ、指の独立や拍のとり方について学ばせるものである。(譜例8)

10) いろいろな奏法. 装飾音(No.80, 99, 100), 手の交差(No.80, 100), 拍子($\frac{2}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{3}{8}$ $\frac{6}{8}$), リズム(単純なものを主としているが、弱起, シンコーション, 付点, 複付点音符)までが扱われている。他に演奏に必要な楽典, 楽語などの学習や美しく弾くためのテクニック, 調子の変化(属調への転調, 並行調への転調), 臨時記号による部分的変化などが曲の

譜例7 重音(6度)



譜例8



練習を通して自然に学ばれるよう考慮されている。また、巻末には学習者の技量に応じて練習させるようにと34の音形が示されている。いろいろなリズムに変長させ練習するならば、なお一層技術の上達が計られるものと思われるが、この巻末の課題、ほとんど使用されることがない。

No. 3~106まで番号の付いている曲だけ、その調性や形式などについて分析したので示す。(表1)

教員養成校におけるバイエル利用状況

教員養成系の学校では前述したように、バイエルに対する批判をもちながらも捨てることができず、「どこかで使う」とされている。実際どの位の学校で使われているのだろうか。実態を把あくするため、教員養成を行う全国の大学、短期大学に対しアンケート調査をしてみた。

- ・ 調査方法 択一法によるアンケート(往復はがきを使用)
- ・ 調査時期 昭和60年4月下旬各校宛に発送。7月中に返送されたもので集計する。
- ・ 発送数 無作為に選出した200校。回収率 160校 80パーセント。
- ・ 質問内容 新入学生(器楽授業開講初年度)の教本として使われている教則本の名を問う項目と、初心者割合を問うごく簡単なものである。

1) アンケートの結果

表2 アンケートの結果

	使用教本名	回答数	%		使用教本名	回答数	%
イ	バイエル	121校	76%	リ2	こどもの世界	1校	0.6%
ロ	トンプソン	2 "	1.2 "	3	◦カレッジピアノメソッド	6 "	3.7 "
ハ	メトロロズ	3 "	1.9 "	4	◦大学ピアノ教本	4 "	2.5 "
ニ	◦ピアノレッスン60時間	6 "	3.7 "	5	◦ピアノメソッド	4 "	2.5 "
ホ	ツイーグラ	1 "	0.6 "	6	◦新しいピアノ教本	2 "	1.2 "
ヘ	グローバー	1 "	0.6 "	7	◦ピアノマスター	1 "	0.6 "
ト	バスティン	3 "	1.9 "	8	◦ステップバイステップ	1 "	0.6 "
チ	ツェルニー100	1 "	0.6 "	9	ツェルニー30	1 "	0.6 "
リ1	◦バイエルと教材研究	2 "	1.2 "	計		160 "	100 %

備考 チとリー9は入試実施校でバイエル修了者がほとんどである。イ〜チまでは書名を記載、使われているものに◦印を付けてもらったものである。リ以下の書名は、その他として各校で使われている教本名を書いてもらったものである。なお、ここに示した以外にも10冊以上の教本名が見られたが、バイエルと重複していたので副教材とみなし除外した。教本名の前に付けられた◦印は、書名は違っているが、その内容がバイエルそのものである。ただ新しい感覚という考えに従って原曲の順番を入れかえたり、似通った曲を削除し練習者になじみのある子どもの歌曲や、各国の民謡、小曲などを入れて編集されたものである。

表 1

番 号	調性	拍子	小節数	形 式	使 用 コ ー ド	転 調
3	C	$\frac{4}{4}$	18	5 度音階練習	C, F, G ₇	
4, 5	"	"	12	"	"	
6	"	$\frac{3}{4}$	"	"	C, G ₇	
7, 12, 13, 53, 54	"	$\frac{2}{4}$	8	1	"	
8, 11, 15, 20~27, 29~31, 46, 58	"	$\frac{4}{4}$	24	2	"	
9	"	$\frac{3}{4}$	48	"	"	
10, 17	"	"	24	"	"	
14	"	$\frac{4}{4}$	12	5 度音階練習	"	
16, 67	"	$\frac{2}{4}$	24	2	"	
18, 19, 25, 48	"	$\frac{3}{4}$	"	"	"	
28	"	$\frac{4}{4}$	16	"	"	
32	G	$\frac{3}{4}$	40	3	G, Am, D ₇	
33	"	"	24	2	G, D ₇	
34	"	"	40	3	G, D ₇ , Em, A ₇	
35, 36	C	$\frac{4}{4}$	32	"	C, G ₇	
37	G	$\frac{3}{4}$	40	"	G, D ₇	
38, 40	"	$\frac{4}{4}$	24	2	"	
39, 61	"	"	16	"	"	
41	Am	"	32	3	Am, E ₇	
42	"	$\frac{3}{4}$	24	2	"	
43	"	$\frac{4}{4}$	"	"	Am, E ₇ , G ₇ , C	
44	C	"	38	5 度音階練習	C, F, G ₇ , C ₇	
45	"	"	16	"	C, G ₇	
47	"	"	10	3	"	
49	"	$\frac{3}{4}$	24	"	"	
50	"	"	20	"	"	
51	"	$\frac{4}{4}$	"	"	C, Dm, G ₇	
52	"	$\frac{6}{8}$	24	2	C, G, G ₇	
55	"	$\frac{4}{4}$	34	3	C, F, G ₇	
56	G	$\frac{3}{4}$	16	カ ノ ン	G, D	
57, 74	"	"	24	2	G, C, D ₇	
59	C	$\frac{3}{8}$	32	"	C, G	
60	Am	$\frac{3}{4}$	24	カ ノ ン	Am, E ₇ , C, G ₇	Am → C → Am
62	C	"	48	3	C, Dm, G	
63	G	"	44	音階練習	G, D ₇	
64	"	"	28	2 コーダ付き	G, D ₇	
65	C	$\frac{4}{4}$	16	カ ノ ン	C, G ₇	

番 号	調性	拍子	小節数	形 式	使 用 コ ー ド	転 調
66	C	$\frac{6}{8}$	32	3	C, Dm, G ₇	
68, 69	G	$\frac{4}{4}$	16	1	G, D ₇	
70, 71	"	"	8	"	"	
75	D	$\frac{3}{4}$	24	2	D, Em, A ₇	
76	G	$\frac{4}{4}$	"	"	G, C, D ₇	
77	C	$\frac{3}{4}$	"	3	C, F, G ₇ , D ₇	C→G→C
78	G	$\frac{6}{8}$	40	"	G, C, D ₇ , A ₇	G→D→G
79	A	$\frac{3}{4}$	24	2	A, Bm, E ₇	
80	D	"	40	3	D, A ₇ , G, D ₇	D→G→D
81	A	"	32	"	A, E ₇ , D, G, A ₇	A→D→A
82	E	"	45	"	E, B ₇ , A, E ₇ , F [#]	E→A→E
83	C	$\frac{4}{4}$	20	カ ノ シ	C, G ₇	
84	"	$\frac{6}{8}$	17	"	C, F, G, Am, Dm, Bdim	
85	F	$\frac{2}{4}$	16	2	F, B ^b , C, C ₇	
86	C	$\frac{4}{4}$	21	5 度音階練習	C, F, G ₇	
87	"	"	24	2	C, Dm, G ₇	
88	G	"	"	"	G, C, D ₇	
89	C	$\frac{3}{4}$	"	3	C, G ₇ , G, D ₇	C→G→C
90	"	$\frac{6}{8}$	48	"	C, G, G ₇	
91	Am	$\frac{2}{4}$	40	"	Am, E ₇ , C, G ₇	Am→C→Am
92	F	$\frac{4}{4}$	16	2	F, B ^b , C, C ₇	
93	Am	$\frac{6}{8}$	"	"	Am, E ₇ , C, G ₇ , B ^b	Am→C→Am
94	F	$\frac{2}{4}$	"	"	F, C, C ₇	
95	C	$\frac{3}{8}$	32	"	C, G ₇	
96	F	"	64	3	F, B ^b , C ₇ , C, G ₇	F→C→F
97	C	"	40	"	C, G ₇	
98	F	"	48	2	F, B ^b , C ₇	
99	B ^b	$\frac{4}{4}$	16	"	B ^b , F ₇	
100	F	$\frac{3}{8}$	72	3	F, C ₇ , C, G ₇	F→C→F
101	C	$\frac{4}{4}$	24	"	C, Dm, G ₇	
102	F	"	20	ソ ナ タ	F, B ^b , G, C, C ₇	F→C→F
103	C	$\frac{3}{4}$	"	3	C, F, G ₇	
104	F	$\frac{3}{8}$	48	ソ ナ タ	F, C ₇ , C, G ₇	F→C→F
105	C	$\frac{4}{4}$	32	2	C, G, G ₇ , Am, E ₇ , Dm	C→Am→C
106	"	$\frac{3}{4}$	96	3	C, D, G, G ₇ , D ₇ , C ₇ , F	C→G→C

2) アンケートの結果からの考察

譜例 9

① 使用教本. 新しい感覚を取り入れながらも総曲数の大半がバイエルから抜粋されている教本をバイエルと見なせば、実にアンケート回収率の92パーセントに当る学校でバイエルを使っていることになる。また、昔ながらの教則本バイエルを使っているところも、全体の76パーセントと実に多い。

譜例 9 は、ピアノの練習曲の楽譜を示している。楽譜は2系統あり、各系統は右手と左手の両方がある。メロディは右手で演奏され、和音は左手で演奏される。歌詞は日本語で、第一系統は「わたしのんき、かわいいんき」、第二系統は「めわほっ、ちりとちいさなあくち」となっている。楽譜には、音の強弱や演奏の指法を示す記号が用いられている。

バイエルは、古典派時代からロマン派時代にかけて、バロックの音楽と並んでヨーロッパ音楽の基本となったといわれるだけに、西洋音楽の様式感がはっきりしている。このようなポリフォニー（多声音楽）に欠けた曲の練習だけで、多様化しつつある現代音楽を試みようということは無理なのではないか。しかし、アンケートで見た限りでは教員養成校でのピアノ教本、依然としてバイエルが根づよく存在している。前述した教員採用試験課題となるという一因のなせる業であろう。この課題が変わらない限りバイエルの使用は、批判をしながらもまだまだ続けられるであろう。そこで、弱起（アウフタクト）や旋法的（モード）な要素をもつ曲を補充教材として扱い、少しでも対位的（ポリフォニック）な演奏の技を身につけられるよう配慮したい。こうしたことを考えたとき、近年、次々出版されている教本は最良のものといえる。

② 初心者数. この質問に対しては無回答も多く確実な数といえないが、初心者数が入学者数（器楽受講者でもある）の10%以下16校、20%以下12校、30%以下21校、40%以下16校、50%以下12校、60%以下7校、65%2校、75%、80%、90%各1校であった。また、初心者0という学校も10校あったが、備考欄への記入事項から、これらの学校では入試に実技試験が行なわれたり、合格後入学迄にバイエルの80番迄必修という条件が出されているからである。

この結果から推測すると、毎年、全国の教員養成系大学に入学する学生のほぼ80%強の者は過去になんらかの形でピアノを習った経験があるといえよう。しかし、過去にレッスン経験をもつ者が、必しも完璧なる演奏技量を身につけているとは限らない。むしろ、自分の意志とは関係なく周囲の影響でなんとなく幼児期から小学時代にかけて習ったという場合、好ましくない癖をもってしまうこともある。また、学校で使う教本がすでに習ったことのあるバイエルであるとき、これを再び復習することに抵抗を感じるのか、往々にして真剣さに欠け練習もあまりされない様子である。従って技の向上も見られず無意味なレッスン時間を過すことになる。

教員養成校で器楽指導を担当する教師は、初心者はもちろんのこと、経験者に対しても、成果の上のような課題を与えるよう常に配慮していかなければならない。

バイエルの活用

バイエルは練習曲であるといってしまうと確かにそうである。しかし、45番位からはリズムカルな曲、旋律的に美しい曲、イメージすることのできる曲など、小曲としてのまとまりも感じられる楽しいものが増えてくる。もちろん高度なテクニックも必要となってくるので練習しなければならない。このとき単なる指練習として終らせるのではなく、曲を通して音楽す

る心を育てたい。そのためには、バイエルを十分使いこなす、すなわち多面的に扱うことが好ましいと思われる。よく「教本の前半は同じことの繰り返しが多くつまらない。」「時間もかかる。」という理由で、教師側の選択で曲を削除すると聞くと、初心者にとって大切なのはこの反復練習である。同形の繰り返しによってこつを覚え、読譜になれ、様々な音楽的技法の習得がされれば、そこに弾く喜びがもたれだし励みとなるであろう。

中味の濃い学習、多面的な扱い方について考えるならば、

① 音楽理論と結びつけた実習教材として、音の進行形式(並進行、返進行)対位旋律、和声音、非和声音、音程と転回、音階と調、その相互関係をはじめ、曲想、奏法、速度など音楽する上で必要な楽典の知識を、バイエルの分析によって深めさせる。

これは、理論によって学んだことを器楽で実習する方法をとるわけであるから、理論担当者と器楽担当者との連絡を密にし、常に互いの進捗が明らかにされていなければならない。そのためには、両者の授業時間が表裏一体であることがのぞましい。

② 創作(歌唱)教材として、幼児期の入門書に(ピアノ・メトードたなかうめよし編集音楽之友社発行)バイエルの原曲に歌詞がつけられているものがある。子どもたちは、こうした曲の練習を喜び、詞のない曲よりその完成も早い。

バイエルの中には、ことばをつければ歌曲として楽しめる曲も多い。自分がイメージしたことを即興的に歌ったり、あらかじめ曲に題名をつけ、その用途や場面に合せた詞を作って歌うなどすれば楽しいのではないと思われる。劇あそびなどのとき利用されたい。(譜例9)

③ 動きのリズム(表現活動)の伴奏曲として、音楽は最も低い年齢から直感的に受けとめられる。また、音に反応し身体の動きに表わすこともできる。従って、スムーズな表現活動を求めるとき、その伴奏の影響は大きい。動きを誘発させるような伴奏であるためには、手に余るような難しい新曲を扱うより十分練習を積んだ曲(バイエルなど)でよどみなく伴奏されることが望ましい。伴奏に適した原曲番号と動きのパターンの1例を示す。(表3)

なお、バイエルを使った創作々品も参考までに示す。(226, 227頁参照)

④ 連弾・アンサンブルを楽しむ。原曲の中でも、片手練習およびNo.3~11, 32~34, 41~44, 86, 87など、連弾曲となっている。しかし、これらの曲は生徒自身の弾く部分が、簡単な同形反復であったり、左右が同じ旋律を弾くユニゾン奏であったりするため、連弾というより教師による伴奏といった方がよい。連弾の楽しさは、弾く者同志がほぼ同じような程度で互いの旋律を助け合い、巾広い音域で豊かな響きが聴かれたとき、その音の美しさに魅惑され連弾することの喜びを味わうであろう。

最近、バイエルによる連弾曲や連弾用編曲が、栗原浩一郎氏をはじめ多くの作曲家によって発表されている。こうした曲の利用ももちろんのこと、カノン風にしてみたり、他の楽器との合奏、組曲の創作など手がけてみれば、さらに楽しい練習となるであろう。

岩崎洋氏による連弾曲の1例を示す。(譜例11)

要 約

明治13年、メーソンによって教員養成を目的とする学校での器楽教本として使われたバイエルは、その後、ピアノ演奏を志す者の必修書となり、多くの人々から親しまれ使われてきた。しかし、時代の変化に伴い教材が多様化されだすと、ポリフォニーに欠けたバイエルの履修だけでは、「歌曲の難しい伴奏など弾けないのではないか」という懸念がもたれるようになり、バイエルの内容について批判がもたれるようになった。ここに、明治以来、永い歴史をもつバ

バイエルによる創作（ダンス）

使用曲 No 46

体形 2重円

- ① 1～2小節（8ケ間）
2人（A、B生）並んで手をつなぐ。左方へ左足より円にそって6歩前進（図1）
7歩目に止って2人で向き合う。（図2）
- ② 3～4小節（8ケ間）
A生は、その場にしゃがみ拍手7回
B生は、A生の回りを7ケ間でひと回りしてくる。（図3）
8ケ間目に2人で向き合い手をつなぎ円の右方を向く。
- ③ 5～8小節（16ケ間）
1～4小節（16ケ間）の動きをくり返す。3～4小節の動きはA、Bが交代する。
- ④ 9～12小節（16ケ間）
A・B生互に向き合い左右へ回転4回（図4）
- ⑤ 13～16小節（16ケ間）
2人が互に手を取りあいその場をひと回りする（図5）
- ⑥ 17～24小節（32ケ間）
9～16小節（32ケ間）の動きをくり返す。

譜例10-1



図1

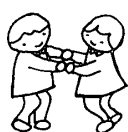


図2



図3

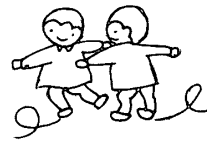


図4

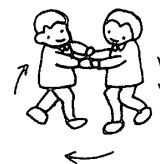


図5

バイエルによる創作（フォークダンス）

使用曲 No. 88

体形 自由（1人から2人へ，2人から4人へ）

① 1～4小節（16ケ間）

手を腰にとり，1人で好きな方へ向ってスキップする。（12ケ間）（図1）

この間に友達をみつけ2人組になる．手をとりあってあいさつをする。（図2）

② 5～6小節（8ケ間）

互いに手をとりあい左右にゆすりながら，左足1歩大きく左にふみ出し右足を引きつけヒールタッチ．右にも同じ．2動作（図3）

③ 7～8小節（8ケ間）

つないだ手の下をくぐり背中合せになり，もとにもどる．1回転する。（図4・5）

④ 9～12小節（16ケ間）

2人で手をつないだままスキップ（12ケ間）

⑤ 13～16小節（16ケ間）

4人の中の新しい者同志が2人組となり，5～8小節（16ケ間）をくり返す．

⑥ 17～24小節（32ケ間）

9～16小節（32ケ間）の動きをくり返す．

譜例10-2



図1



図2

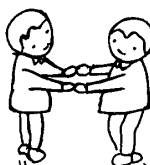


図3



図4・5



図6

表3 バイエルでの表現伴奏

動きの種類	拍子	原曲番号	動きの種類	拍子	原曲番号
歩行（マーチとして）	$\frac{2}{4}$ $\frac{4}{4}$	8, 16, 30, 58, 92	ワルツ	$\frac{3}{4}$ $\frac{6}{8}$	18, 33
走行（マーチとして）	”	17, 46, 50	ねん転	$\frac{4}{4}$	39, 91
跳躍（両足とび）	$\frac{2}{4}$ $\frac{3}{4}$	54, 57, 89	緊張と弛緩	$\frac{3}{4}$	62, 66, 78, 90
”（片足とび）	” ”	56, 67, 80	動物表現（大きいもの）	$\frac{2}{4}$ $\frac{4}{4}$	11, 39, 68, 69
波動（上体で）	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$ $\frac{6}{8}$	45, 59, 75	”（小さいもの）	$\frac{2}{4}$ $\frac{4}{4}$	73, 87, 102
”（全身で）	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$	47, 76, 77	”（跳ぶもの）	$\frac{3}{4}$ $\frac{4}{4}$	89, 94, 97, 98
振動（全身・腕の上下）	$\frac{4}{4}$ $\frac{6}{8}$	52, 74, 88	”（はうもの）	$\frac{4}{4}$	105, 106
屈伸	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$	21, 31, 61, 84, 90	乗物表現	$\frac{2}{4}$ $\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$	86, 92, 97, 103
回転	$\frac{4}{4}$	55, 101	フォークダンス的な動き	$\frac{4}{4}$ $\frac{3}{4}$	46, 88, 100

注) この分類表は、過去数回に渡り学生諸君にバイエルを使って作品を作るという創作課題、並びに指定した動きの伴奏になると思われる曲番を示せ、という課題を与えてきたときの集計である。最も多く出されたものをとった。

譜例11

イエルの存在は大きく揺らぎはじめた。メーソンが来日したとき提唱したバイエル使用の目的は失われてしまったのだろうか。実態を把あくするために、バイエル利用率の調査を試みた。その結果、バイエルの使用は調査協力校の92%と意外な数を見ることができた。

国公立教員採用試験の課題としてバイエルが使われる限り、今後もその使用は続いていくことであろう。そこで、少しでも楽しく効果的な練習がされることを願って、バイエルの分析を行い、多面的な扱い方とその活用法を検討してみたい。今後、これを実践に移しさらに充実したものとしていきたい。

参 考 文 献

- 1) バイエル教則本，音楽之友社
- 2) 田村 宏：ピアノ講座(2)，p.85～94，音楽之友社(1981)
- 3) 森 節子：音楽大事典(4)，p.1835，平凡社(1983)